

| 学校名  | 研究課題 | 研究手法    |
|------|------|---------|
| 緑中学校 | 教科一般 | 学習形態の工夫 |

## 1 研究の重点と具体的な取組

### (1) 重点1 ナラティブをベースにした『みどりの授業スタイル』の習慣化

すべての教科の授業において、導入段階と終末段階に行う活動をそろえる。

- ①生徒の言葉による「まとめ」とそれに基づく「今日のキーセンテンス」の設定  
生徒が自分の言葉でまとめを書くための手がかりとなる用語等を、緑色のチョークでマークする。また、授業の最後に、本時の授業を想起する言葉として、「今日のキーセンテンス」を示す。
- ②生徒に「わかった」「できた」を実感させるための「まとめ」の後の時間確保  
「まとめ」の後の練習問題や適用題の時間を確保できるように、常にタイムマネジメントを意識した授業を行う。

### (2) 重点2 教科部会の充実を軸にした授業改善

取組の共通理解と共通実践をすすめるため、教科部会を毎週行う。

- ①全教科部会の週時程内設定  
教科主任会を受け、取組内容の共通理解を図ったり、取り組んだことの情報交換を行ったりする。
- ②教科主任会の効果的な開催  
月1回以上の教科主任会を設定し、授業改善の取組について周知する。
- ③定期テスト実施日の2ヶ月前に、教科部会で「基礎の問題」「活用の問題」を作成  
生徒に「つきたい力」とその指導方法について、具体的な問題を通して、教科部会の中で共通理解を図り、授業を行うようにする。

## 2 取組の検証

### (1) 重点1の取組の検証

- ①週案への記載とキーセンテンス一覧の掲示
  - ・全教員が週案にキーセンテンスを書いていた。
  - ・各クラスのナラティブボード(各教科のキーセンテンスを書いたもの)を担当教員が写真を撮り、職員室前に掲示することで生徒と教員の意識の向上につながった。
- ②生徒による授業アンケート等
  - ・授業アンケートにおける「キーセンテンスを意識して授業を始めることができた」の全教科平均の結果（4段階評価で肯定的な評価を足した数値）を見ると、研究開始時から2年目まで数値が増加している。

授業アンケート

| R1  |    | H30 |    |
|-----|----|-----|----|
| 12月 | 7月 | 12月 | 7月 |
| 76  | 76 | 74  | 68 |

単位 (%)

教員アンケート

| 「とても当てはまる」 |    | 肯定的評価 |    |
|------------|----|-------|----|
| 12月        | 7月 | 12月   | 7月 |
| 45         | 38 | 94    | 97 |

単位 (%)

- ・教員アンケートにおいて、研究2年目から導入した「導入時に前時のキーセンテンスを想起させ、本時の課題につなげている」の項目では、「とても当てはまる」「当てはまる」を合わせた肯定的評価だけでなく、「とても当てはまる」の数値も増加している。

### ③総合訪問（6／7）による指導・助言

ア 総合訪問で課題として明らかになったこと

- ・キーセンテンス，まとめの取組の実施状況についての多面的検証
- ・生徒一人一人に考えさせる時間の確保

イ 訪問後の対応策

これまで実施してきた調査回答による自己チェックに加え，管理職・主任による客観的評価を行い，結果を全教職員に還元するとともに，改善策を検討する。

ウ 現段階での状況や課題等

主幹教諭，研究主任，生徒指導主事による視点を定めた授業参観（84）を実施し，評価を行った。

#### 【課題】

- ・緑のチョークを使った板書
- ・終了10分前にはまとめの段階
- ・定着のための練習時間の確保

#### 【7月以降の取り組み】

組織的な取組になるよう工夫をしてきたことについては，総合訪問にて一定の評価はいただいたが，上記3点については，教員の自己評価結果等と乖離した結果となっていた。

「わかった」「できた」を実感できる授業を推進するために，夏季休業中の校内研修等を活用し，まとめの充実を図っていく。

## (2) 重点2の取組の検証

### ①教科部会記録

週時程に教科部会を入れることで，月末に行われる教科主任会で周知した内容について充実した協議・研修がなされた。加えて，各教科部会での管理職の助言や教頭への記録の提出・職員室内でのファイル保管を行うことで，より充実させることができた。

### ②定期テスト結果

教科部会での検討はできたが，「基礎の問題」の正答率80%をすべての教科・問題で達成することができなかった。今後は，目標値に達成するまで，繰り返し学習や小テストの実施等により，粘り強く取り組む必要がある。

## 3 成果と課題

○教科部会を週時程内に設定したことにより，毎週確実に実施ができ，教科の課題等について定期的に研修が実施され，校内研修より効果的であった。

○どの教科，どの教員の授業でも，前時のキーセンテンスについて確認することから授業がはじまり，展開を経て，生徒の言葉でまとめを行う授業スタイルは定着してきた。

▲学期末に行った授業アンケートの結果，「自分の言葉でまとめる」については，肯定的回答の割合がやや下がっている。（77%→75%）授業のタイムマネジメント，まとめやすい課題の設定，まとめにつながるキーワードを意識した授業づくりを継続していく必要がある。

▲全教員が足並みをそろえて取り組むことについては，重点期間を設けることやその都度検証し，改善に向けて新たな提案をしていくことが大切である。その際，教員の過度な負担とならないようK-1 2などの効果的な活用をより推進する必要がある。

| 参観の視点 |                   | ○   | △  | ×   |
|-------|-------------------|-----|----|-----|
| 1     | 前時のキーセンテンスから対話で開始 | 86% | 0% | 14% |
| 2     | 開始5分前後に課題が板書      | 65% | 5% | 30% |
| 3     | 緑のチョークを使った板書      | 52% | 0% | 48% |
| 4     | 終了10分前にはまとめの段階    | 52% | 0% | 48% |
| 5     | 生徒の言葉によるまとめ       | 75% | 6% | 19% |
| 6     | 定着のための練習時間の確保     | 54% | 0% | 46% |
| 7     | 単語ではなく文で話している     | 80% | 0% | 20% |
| 8     | キーセンテンスを示している     | 95% | 0% | 5%  |